

● モートン神経腫

● 症状



趾間の知覚異常の部位

● モートン神経腫とは—

足趾の神経が骨の間に挟まれることにより神経が障害され趾間（足指の股）の知覚異常や疼痛を起こす疾患です。

● 症状

歩行時の趾間への放散する疼痛やしびれ感、中には灼熱感を感じることもあります。

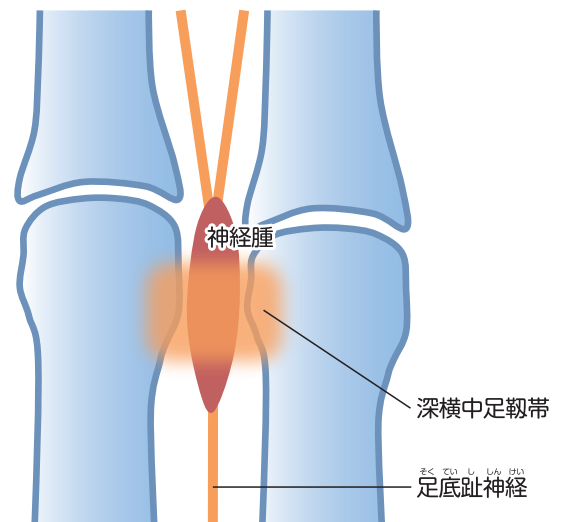
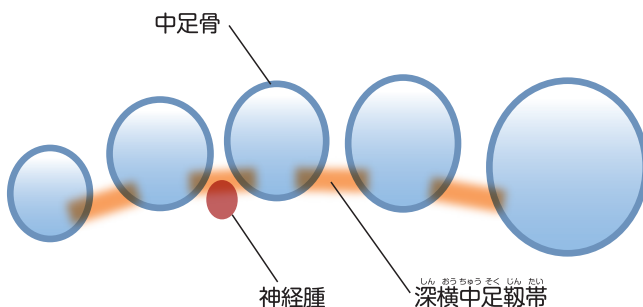
足趾の間の知覚異常、特に第3趾と第4趾の間、第2趾と第3趾の間に多い。

● 原因・病態

● 病態

足趾に向かって神経は、骨の間をすり抜けるように各趾へ走行しています。骨の間は靭帯により強固に連結されており、特に第2趾と第3趾、第3趾と第4趾の間は狭くなっています。これにより神経が障害されやすくなっています。また第3趾の骨は動きが少ないのに対して第4趾の骨は動きが大きいために第3趾と第4趾の間において神経がより刺激を受けやすいとされています。

より幅の狭い靴を履くことで神経が外から圧迫を受けて神経障害を起こしてしまいます。中には神経が腫れて神経腫を形成することもあります。



診断

●以下の症状が認められた場合、モートン神経腫と診断されます。

- 歩行時に、足趾の付け根から指先にかけての疼痛、しびれ、灼熱感がある。中には安静時にも症状が出ることもある。
- 靴を履いている時に症状が強くなり、靴を脱ぐと軽快する。
- 足趾の付け根を横から握って圧迫すると、趾間の疼痛や腫瘍しゅりゅうを感じる。

MRIで神経腫を確認できることもありますが、診断率は決して高くありません。

治療

●治療方法

保存療法

- 幅の狭い靴やハイヒールなどの使用を控えます。
- 中足骨パッドや足底挿板あそこを使用します。
- ステロイドと局所麻酔薬の局所注射を行います。数回の注射で約半数に効果があります。



ハイヒールなどの使用を控えます



手術療法

- 保存療法を行っても症状の改善が見られない場合には、手術療法を選択することがあります。
- 足背もしくは足底を数センチ切開して靭帯を切り離し、神経腫を切除します。